

発見！未公開の福田平八郎書簡

大分県立美術館「没後50年 福田平八郎」にて特別公開

大分県立美術館は、地元大分市出身の日本画家、福田平八郎の大回顧展「没後50年 福田平八郎」を開催します。展覧会の準備中、福田平八郎による貴重な書簡が発見されました。この書簡は、福田平八郎が友人であり劇作家として活躍した高谷伸に宛てたもので、昭和32年2月12日に書かれました。この発見により、当館所蔵の《野薔薇》の制作年が、現存する福田作品の中で最も古い大正2年(1913)であることが確認されました。

今回、新たに発見された福田平八郎の書簡を、5月18日から6月16日まで初めて一般公開しますのでお知らせします。

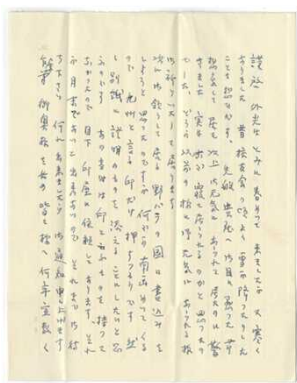
資料概要

資料名：福田平八郎「高谷伸宛書簡」

日付：昭和32年2月12日

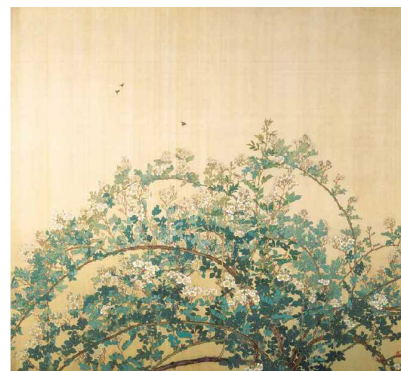
サイズ：縦 22.9cm×横 17.9cm

所蔵先：個人



★新発見資料

福田平八郎
高谷伸宛書簡 昭和32年(1957)
展示期間：5/18～6/16



福田平八郎《野薔薇》大正2年(1913)
大分県立美術館蔵
展示期間：5/18～6/16
※大阪中之島美術館でも5/6まで展示

資料のポイント

①高谷伸について

高谷伸(1896-1966)は、京都市立美術工芸学校、京都絵画専門学校で福田と同級で、仙外と号し、日本画家として活躍する一方、戯曲を書きながら、京都日の出新聞や関西中央新聞に演劇評を執筆し、劇作家・劇評家・舞踊作家として活躍しました。福田の手記(「雅号の由来・初めて絵の売れた時(3)九州から素仙」『大毎美術8巻4号』昭和4年4月)によると、美術工芸学校2年次の校友会に出品した《野薔薇》は、高谷伸の父親が購入し、それが初めて売れた作品だったといえます。

②書簡の内容

高谷伸の所蔵品となっていた《野薔薇》に関する記述があります。これによると当時福田が《野薔薇》を一時的に預かっていたこと、そしてこの作品を制作した時代は印を持っていなかったため、「九州」の印を新しく作って捺すつもりであることが記されています。

③書簡の位置づけ

福田が「九州」の雅号を使うようになるのは美術工芸学校を卒業し、京都市立絵画専門学校に進学した大正4年以降であるため、「九州」の印がある《野薔薇》が美術工芸学校2年次の校友会の出品作であるかどうかはこれまで特定できませんでした。本資料の発見により、「九州」の印が後で捺されたものであることがわかり、《野薔薇》は美術工芸学校2年次の校友会の出品作で間違いなく、現存する福田作品の中で制作年がわかるもっとも初期の作品であることが確認できました。

お問合せ：大分県立美術館

TEL:097-533-4500 FAX:097-533-4567

MAIL:info@opam.jp 広報(安東、山口)